

「^{ソジ}SOGI」とは多様な性的指向や性自認。私たちは毎月の定例会で、院内でのSOGI支援推進のために色々な議論を行っています。

答えが出ないことも多いですが
私たちがどんな検討を
行っているのかを定期的に
ご報告いたします。

今回の議題

市民公開講座の報告

●講演
LGBTQ+当事者が
心地よいと思える医療と
教育を実装するために

●講師
宝塚大学看護学部 教授
京都大学医学部 非常勤講師
ひ だか やす はる
日高 庸晴 先生



SOGI支援チームは、本学の「高知大学におけるSOGIの多様性に関する基本方針（令和4年1月27日制定）」に準拠し、当院内で以下の目的を達成するために活動しています。

研修、提言などの活動を通じて
附属病院職員のSOGIへの
理解を深めること

多様な性の在り方を持つ人々が
苦痛なく安心して受診、治療を
行うことができる院内環境
づくりに資すること



7/12に開催された市民公開講座には72名にご参加いただきました。医療、教育、行政等の関係者の方、一般市民やきつと当事者の方にもご参加いただけたと思います。皆さんが学べたことをまずは共有しましょう。

講師の日高先生からは、日本国内最大規模のLGBTQ+当事者調査に基づく分析結果から、当事者が置かれた困難さを量的に示していただきました。チーム活動でそれなりに学ぶ機会はあったはずなのに、実態を想像できていなかったことに気付かされました。



4人に1人がアウティング※を経験していることや、SNS等でLGBTQ+当事者への差別的な発言を見聞きした人は全体で7割を超えていること、特に10代の多感な当事者がSNSに慣れ親しんでいるためにより高い割合で傷ついた経験があるなど、当事者の置かれた厳しい現実を知る機会になりました。

※アウティングとは、他人の性的指向や性自認などを当事者の許可なく他の人に暴露する行為です。

LGBTQ+当事者が自身の性自認や性的指向に気付く年代が、小学校高学年から中高生の時期で、その子たちがいじめ被害や不登校、自傷行為をより高い割合で経験していることも学びました。



その年代の子たちをサポート出来るのは、まずは教育機関であり、保健室が避難場所になっていることも分かりました。一方で、2016年4月に文部科学省から通知されたSOGIへの配慮や対応等に関する文書を読んだことがある教職員は18%しかいないことから、支援できるのか心許ない現状があることも学びました。

私たちチームにとってもとても学びの多い公開講座になりましたね。
このことを次の活動に活かさないと。



日高先生から教わった、当事者調査から見える現実、そして先生が伝えてくれた当事者の声は、私たちチームの想像以上に当事者の生きづらさを伝えるものでした。

先生に指摘されたように、医療機関もスタッフへの教育が行き届かず、十分な支援体制が出来ていない現状にあると思います。また、当事者団体の方に指摘されたように、本院はアライ※養成研修に取り組んでいますが、一度だけの研修で実際に当事者を傷つけない、がっかりさせない対応が出来るのか。また、命を救うことを最大の使命としている医療機関に設置されたSOGI支援チームである我々が、これまでSOGI支援と自殺予防を一体的に考えることが出来ていなかったことにも気付かされました。必要な医療を届けることが出来る病院を目指すと同時に、もっと自分たちが当事者のことを知ること、そして多くの医療者に知ってもらう取り組みを進めていきたいと思いました。

※アライとは、同盟、仲間、味方などを意味する英単語。性的少数者にとっての理解者、支援者を意味します。

シンポジウムの様子



高知大学医学部附属病院
地域医療連携室
医療ソーシャルワーカー
前田 英武

高知大学医学部附属病院
総合診療部 准教授
SOGI支援チーム代表
武内 世生

●講師
宝塚大学看護学部 教授
京都大学医学部 非常勤講師
日高 庸晴 先生

LGBTQ+とアライで
活動している団体
レインボー高知 代表
宮田 真

その後

今回の学びから、チームの課題を以下のように話し合いました。

院内職員への 取り組み

院内アライに対して、ロールプレイといった実践的なフォローアップ研修を実施する。また、SOGIに特化した研修だけでなく、院内ですで行なわれている研修において、私たちが接する患者さんの中にLGBTQ+当事者がいることを想定してプログラムを組んでいくこと。(ベッド上での患者介助に関する研修の際に、トランスジェンダー当事者の場合はどんな配慮が必要かを考えるなど)

医療関係者への 取り組み

本院の医療職だけでなく、医療を学ぶ学生や、地域の様々な機能、領域の保険医療機関等の職員に向けたSOGIに関する教育機会を強化していくこと。

教育機関との 連携

私たち医療機関が接することが出来るのは来院し患者となった当事者だけになってしまうため、特に10代の当事者たちの健康リスクを鑑み、その支援の第一線となる教育機関との連携を検討すること。

編集後記

SOGI支援に取り組むことが「子どもたちの命を守る」ことにつながっているという日高先生の最後のメッセージは、会場にいた医療、教育、行政関係者に重く響いたのではないのでしょうか。それぞれの立場で大きな責任があることを痛感させられる言葉でした。高知県内唯一の大学病院としての本院がすべきこともあるはずで、そのことをチームで、そしてこれまで同様に県内の当事者の方からも意見をいただき、考えていきたいと思います。

チームでは、色々な部署からのご相談をお待ちしています。
みんなが過ごしやすい病院になるように一緒に考えていきましょう。

高知大学医学部附属病院 SOGI支援チーム

問い合わせ先 E-mail: sogi-kms@kochi-u.ac.jp